

生きる力を高め、医療福祉を創造するはばたき福祉事業団  
患者が変われば、医療は変わる

## 本年も宜しくお願ひ申し上げます。

命を大切にす社会、愛あるあたたかい社会をめざして、はばたきは常に進みます。  
HIV感染者、血友病患者の自律・医療福祉の進展に今年も力を尽くしてまいります。  
社会福祉法人はばたき福祉事業団

### 就労シンポジウム

## 就労による社会参加で偏見・差別の解消をめざします

はばたき福祉事業団では、HIV感染者の差別・偏見の解消を目指して、就労を切り口としたシンポジウムに一昨年から取り組んでいます。差別・偏見により社会参加できないHIV感染者が、就労という形で社会とかわり一歩を踏み出すことによって、差別・偏見も少しずつ解消されていくと考えています。

10月27日、東京ステーションコンファレンスにて、「HIV感染者就労のための協働シンポジウム」(独立行政法人福祉医療機構(高齢者・障害者福祉基金)助成事業)を開催しました。前回のシンポジウムはHIV感染当事者を対象に開催しましたが、今回は企業からの参加者を対象に行いました。日本経済団体連合会のご協力を得て呼びかけた結果、企業からは50名以上の参加があり、約120名の方が参加しました。

基調講演では、現在のHIV医療について、エイズ治療・研究開発センターの岡慎一センター長から講演があり、HIVに対して漠然とした不安を抱えている企業の方に、「日常生活では感染しない」ことをはっきりと伝えて下さいました。また、2人の当事者を雇用した経験を企業の方が語ったビデオ上映も、日頃HIV感染者と接する機会のない企業の方には印象深く残ったようです。

セッションでは、身障者手帳を使ってHIV感染者から応募があった場合と、就労中にHIV感染がわかった場合という、実際に十分起こりうる2つの場面を想定したビデオをまず上映し、それにもとづいて医療や企業、当事者らが参加して、どのような対応をすればよいのかを議論しました。特別なことは何もいらぬというのが当事者の意見でした。また、「HIV感



開催の趣旨を述べるシンポジウム委員会の関由起子委員長



就労への熱いメッセージを訴える当事者の後藤正善さん

染者は働きたいと思っている、HIV感染者のための就労フェアをやってほしい」と、就労に対して前向きな強いメッセージでセッションは締めくくられました。このシンポジウムには、当事者、

NGO、企業、行政の協働によって、多くの方々の参加を得ることができました。皆様のご協力に感謝いたします。

2月2日の大阪を皮切りに、福岡、名古屋、札幌で、このシンポジウムの報告会を開催します。シンポジウムで報告された内容はもちろんのこと、それぞれの地元で就労支援に携わっているハローワーク担当者やソーシャルワーカーの方からお話をいただきます。お近くの方、特にHIV感染者を受け入れる側の企業の方には、ぜひご参加いただきたいと思います。



岡先生からは現在のHIV医療について講演

### 予定する各地報告会日程

#### ●大阪

日時：2月2日(月) 15:00-17:00  
会場：難波御堂筋ホール HALL 8B

#### ●福岡

日時：2月16日(月) 15:00-17:00  
会場：株式会社NCB経営情報サービス 第4会議室

#### ●名古屋

日時：3月2日(月) 15:00-17:00  
会場：テルミナ会議室 7階会議室

#### ●札幌

日時：3月9日(月) 15:00-17:00  
会場：札幌アспенホテル アспенB



あと2カ月!!

## 3月16日にメモリアルコンサート

### 第5回 はばたきメモリアルコンサート

～ 薬害エイズ被害者への思いを込めて ～



【プログラム】  
 モーニング・コンサート  
 池田 浩一 指揮  
 ユニオン・オーケストラ  
 池田 浩一 指揮  
 ユニオン・オーケストラ  
 池田 浩一 指揮  
 ユニオン・オーケストラ

【チケットの申込みは「はばたき」事務局まで】  
 TEL:03-5228-1200 / E-mail: info@habataki.gr.jp

ある被害者と音楽家との出会いをきっかけに始まったはばたきメモリアルコンサートが、今年で記念すべき第5回目を迎えることになりました。開催は3月16日(月)18時30分開演(18時開場)、会場は日本大学カザルスホールです。

今回は、コントラバス奏者の吉田秀さんの演奏をお楽しみいただきます。「チャリティーができる音楽家は一握り。声をかけていた

だいてうれしい」と、このコンサートで演奏できる喜びを語って下さいました。また、若手演奏家として、オーボエ奏者の荒絵理子さんに登場いただきます。すでに数多くのオーケストラで演奏経験があり、素晴らしい演奏を聴かせて下さると思います。また、薬害エイズ被害者への思いを込めて池田晋一郎先生が作曲した「やすらぎの翼-弦楽三重奏のために-」を毎回演奏していただいているモルゴーア・クアルテットやこのコンサートの実現に尽力いただいている石岡久乃さんのピアノデュオ、プリムローズ・マジックも参加します。もちろん総合音楽監督は池田先生です。

歴史的な和解から13年が経過しようとしている薬害エイズ事件は、残念ながら少しずつ風化しつつあります。しかし、すでに620名を超える被害者が亡くなり、今なお病氣と闘っている被害患者もいます。私たちは、未だに被害が続いているこの事件を風化させず、伝え続けていく決意をこのコンサートに託しています。第5回の記念となる今回は、あらためてその思いを音楽に乗せて、社会へより強く、より大きく響かせたいと思います。ぜひ多くの方にご来場いただきますようお願いいたします。

## 若者の感染予防をめざして エイズデーでは

世界エイズデーである12月1日の前後には、毎年各地でエイズデーイベントが行われています。特に今回は、若い世代を対象としたイベントが目を引きました。

11月29日には、東京・渋谷で「Red Ribbon Live」が行われました。日本では1日4人のペースで感染者が増加しており、こうした現状に危機感を持ったラジオDJの山本シュウさんが中心となり、2006年からこのイベントは始まりました。公共広告機構のエイズ検査促進CMに出演しているGLAYのTERUさんをはじめ、山本さんの呼びかけに応じて多くのアーティストが集結し、ライブとトークで若者にエイズ予防啓発を呼びかけました。

## 日本エイズ学会に参加して 「サークルさっぽろ」からの報告

北海道支部 杉山 逸子

昨年11月26日から28日まで大阪で第22回日本エイズ学会が開催され、参加しました。今年は、札幌市から委託を受けてはばたき福祉事業団が運営しているHIV検査・相談室「サークルさっぽろ」から3つの演題を発表しました(内2題はポスター発表)。

一昨年のエイズ学会の開催時は「サークル」の開設準備真っ盛りで、直前に学会参加をキャンセルしたことをなつかしく思い出します。

医療者、コ・メディカル、支援者、患者などさまざまな立場からの参加があるのがこの学会の特徴ですが、今回の演題からはよりその広がりがうかがえました。訪問介護の立場から、施設の受け入れ体制、地方の病院でのHIV検査、企業のCSRとしての取り組み等々、様々な切り口でHIV問題に取り組んでいる人たちがいることを知り、その内容の重さと深さを受けとめることに追われました。

## 無関心を払拭 自らやることから始まり広まった

また、12月1日には早稲田大学の学生サークル「qoon」が企画したHIVの迅速検査「AIDS SPEED CHECK」が大学構内で行われました。検査には、岡慎一センター長をはじめ、エイズ治療・研究開発センターの医療スタッフが全面的にバックアップ。最終的に受験者数は203人にのぼり、学生を中心に多くの若い世代が検査を受けました。事前にイベントを企画して検査予約を行うなど、学生ならではの視点、手法、企画力で、入念な準備を行い成功させました。

とりわけ「日本のエイズ対策はどこへ向かうのか?」というセッションでは、厚労省、医師、保健所などそれぞれの立場から現状と展望が述べられ、「サークル」が日本のなかで果たしている役割とその位置をあらためて振り返る機会になりました。

以下は「サークル」の07年12月～08年11月までの12カ月間の現状です。

毎週土曜日、午後4時～7時の間に約20名の検査を行い、翌週に結果を返しています。受検者数871名(男性495、女性376)内陽性者4名。190名(21%)が相談を受けており、相談の場があることの意義を強く感じています。受検者の年代は10代が5%、20代が49%、30代が32%、40代が9%、50代が3%、60歳以上が2%。居住地は札幌市83%、道央11%、道南2%、道北1%、道東2%、その他1%。当検査を知った主なきっかけは、知人から12%、テレビ15%、インターネット51%でした。検査を受けた人が受けやすいと感じて「知人」へ薦めて下さっていることをとても嬉しく思います。

現在は、英語版のHPと通訳同行を希望する方へのサービスを準備しているところです。課題はありますが、日本のエイズ対策のなかのひとつの取り組みという視点を忘れず運営をしていきたいと思っています。



# 日本公衆衛生学会総会に参加して ～さらなる就労の広がり～

九州支部 成瀬 修次

2008年の日本公衆衛生学会総会は、11月5日から7日まで、福岡国際会議場を主会場として開催されました。はばたき福祉事業団は、HIV感染者の就労をテーマに紹介ブースに出展し、自由集会を開催しました。

ブースでは、訪れる学会参加者に資料を渡し、はばたき福祉事業団の事業について説明しました。行政機関の担当者や大学の研究者などが、「HIV感染者就労のための協働シンポジウム報告書」や「HIV感染者の就労環境向上のために はたらくBOOK」などを手にとって見ていかれ、はばたき福祉事業団の活動を知っていただくよい機会になったと思います。

また、自由集会「HIV感染者の就労環境を考える会」では、ハローワーク福岡中央の武石博さん、はばたき福祉事業団専門家相談員の石谷誓子、福岡県派遣ソーシャルワーカーの本松由紀さん、国立病院機構九州医療センターの山本政弘先生の講演のほか、感染者インタビューの音声による紹介がありました。福岡のハロ

ーワークからは、障害者手帳を使い免疫機能障害で就労した人は少ないが、免疫機能障害は企業にとっては障害者を迎えるための特別な投資をする必要がないので受け入れやすいはずであるという指摘がありました。

集会には30名ほどが参加し、参加者からの質問も多く、HIV感染者の就労問題への関心の高さが感じられました。

雇用の障害者枠など制度が整備されてきたとはいえ、社会にはまだまだHIV感染者に対する偏見が根強く、「日常生活ではうつらない」という理解が企業に浸透しているとは言えません。このような現状では、実際にハローワークで免疫機能障害で障害者手帳を使って就労することは難しいと考えられます。とりわけ地方では「働きたいけれど、雇ってもらえない」「働いているけれど、ありのままの自分を理解してもらって働いているわけではない」という感染者が多いようです。こういった感染者の声をきちんと受けとめ、感染者が生き生きと暮らしていける社会を目指して活動を続けていこうと思いを新たにしました。



自由集会では活発な質疑応答が行われました

## 冊子の紹介

医療や制度について、いくつかの冊子が発行されましたので、ご紹介いたします。いずれも、皆様のお役に立つ内容ですので、ご希望の方は、はばたき福祉事業団までお問い合わせください。

### ○「薬害HIV感染被害者遺族等のメンタルケアに関するマニュアル」(平成20年9月)

平成16年に、薬害HIV感染被害者遺族のPTSD等の健康被害対策に関する検討をするため研究会が設置され、このたびその成果として本冊子が発行されました。今後遺族のメンタルケアに関わる医療福祉関係者の方にぜひ読んでいただきたいと思います。



### ○「HIV・HCV重複感染症診療ガイドライン 第3版」(平成20年11月)

### ○「Heartec. 2008" HIV・HCV重複感染患者さんの手引き" 第3版」(平成20年11月)

北海道大学病院のHIV・HCV重複感染症委員会では、HIV・HCV重複感染症に対する最新・最適な治療法について検討し、ガイドラインを発行しています。本ガイドラインに沿った治療によりHCVを排除できた症例が少ないながらも出てきているとのこと。また、患者向けにイラストや図をたくさん盛り込んだ分かりやすい冊子も発行されました。



### ○「制度のてびき」(平成20年11月)

年金や医療費助成など、HIV感染者が利用できる社会制度が紹介されています。病気とうまく付き合いながら生活するために、ぜひ積極的に制度を活用してください。



## 13年続くペットボトル募金 今年もいただきました

大分県保険医協会では、薬害エイズ被害者の支援のために、県内各地の医療機関にペットボトルを配布して、HIV薬害被害者支援募金の協力を呼びかけています。

この貴重な支援募金は毎年はばたき福祉事業団にご寄付下さっています。今年も、1月24日に大分県保険医協会の賀来進副会長をはじめ、4名の方が事務所を来訪され、今年度の寄附金15万803円を頂戴いたしました。

薬害エイズ裁判は和解から13周年になるうとしています、募金のために使っていた当初からのペットボトルはなくなってしまったそうです。しかし大分の皆様は、ペットボトルを自前

で用意して、この募金を継続してくださっています。そうした熱意のおかげで、今年の募金額は昨年を上回るものとなりました。

はばたきでは、薬害エイズ被害を風化させないことを願って活動してい

ますが、薬害エイズの啓発につながる募金活動を大分の皆様が自発的に下さっていることを、とても心強く感じています。

最後になりましたが、毎年支援募金にご尽力いただいている大分県保険医協会の皆様、そして募金にご協力いただいた皆様、誠にありがとうございました。



ペットボトル募金贈呈に訪れた賀来副会長(左から2人目)



## 北海道支部

### 1周年を迎えた「サークルさっぽろ」

一昨年12月にオープンしたHIV検査・相談室「サークルさっぽろ」は無事1周年を迎え、道内の拠点病院会議でその成果を報告させていただきました。

また8月には長く開催できなかった「患者交流会」を行い、かつての日々をなつかしく思い出すとともに、こうした活動の大切さを実感しました。

3月9日には「就労シンポジウム報告会」を開催します。

## 東北支部

### 一人ひとりの顔が見えるように

被害者一人ひとりと機会を見つけて積極的に言葉を交わす事を目標に活動を行っています。最近では事務所の相談スペースに立ち寄

って治療、生活、近況などについて話していかれる方、支部会議や拠点病院連絡会議などに参加する方も増えてきて、活動について意見をいただいています。これらの意見を参考にしながら被害者との繋がりを更に強めるために皆様のニーズに沿った活動をしていきます。

## 中部支部

### 小さな集まりを数多く

地道に活動を続けています。被害者を対象に小規模な集まりや訪問相談などを積極的に行い、遺族相談会に初参加の遺族の方がいるなど、着実に成果を上げています。

また、昨年に引き続き就労シンポジウムの報告会を名古屋で開催します。中部地区の皆様にもはばたきの活動の一環を直接お伝えできるものと思います。

## 九州支部

### 事務所があってよかった！

このごろいちばん嬉しかったのは、患者さんのご家族が事務所にみえて、「ここでは何の心配もなく安心して話せる。ここがあって良かった」と言われたことです。これからも患者、家族、遺族が安心して話せる場でありたいと思います。

またこれまで、HIV感染者を支援するNGOの方々や、集会で出会った障害者の方々から、根強い偏見差別のため就職できないといった九州の厳しい現実を伺いました。まずは2月16日、福岡での「就労シンポジウム報告会」を足がかりに、HIV感染者の社会参加をすすめたいと思います。

## HIV感染被害者の問題を共有して ～中国と日本

1990年代半ば、中国では売血や輸血が原因で血液製剤を介したHIV感染被害が発生しました。近年、こうした血液管理の不備からHIVに感染した被害者たちが救済を求めて、中国各地で訴訟を起こしています。しかし、法制度の未整備や情報不足など、感染被害者にはいくつもの壁が立ちはだかっています。

この問題について、日本の薬害エイズ事件の経験と教訓を共有し、救済を実現するために、学習院女子大学准教授の阿古智子先生が中心となって、シンポジウム「エイズ問題が語る中国の真実」が11月16日に開催されました。

シンポジウムでは、中国側パネリストから、行政の非協力的な対応、家族を含めた激しい差別・偏見の事実などが次々に語られました。患者団体や市民組織がHIV感染者の救済・支援活動に取り組んでいるものの、言論や団体活動の規制など社会体制の問題によって思うような活動ができず、相当な困難に直面しているようです。中国からの参加者には、日本でのHIV感染者の支援には、NGOによる活発な活動が大きな役割を果たしているという事実が、強く印象に残ったようでした。

### 賛助会員数 2009年1月末現在

学 生	13名 ( 15口数)
個 人	721名 (929口数)
団 体	53団体 ( 88口数)

### ● 賛助会員募集中 ●

学生会員	年間	一口	1,000円
個人会員	年間	一口	3,000円
団体会員	年間	一口	10,000円

- ・はばたき福祉事業団の運営を安定させるために、賛助会員を募集しています。ご家族やお知り合いの方にも声をかけて頂けると幸いです。
- ・賛助会員の皆さんには、ニュースをお送りします。
- ・お申し込みは、郵便振替用紙に住所・氏名等ご記入の上、会費を添えて、郵便局からお振込み下さい。

### 【郵便振替】

口座番号：00130-4-409457  
名義：社会福祉法人 はばたき福祉事業団

※活動を進めるための大きな力となるご寄付もよろしくお願い致します。

### ■ 編集後記

2009年は、派遣切りをはじめ重苦しい話題に包まれた大変な年明けになりました。「仕事」をもつことは人間の生活にさまざまな意味をもつことを、あらためて感じる日々です。各地で開催される「就労シンポジウム」がHIV感染者だけではなく、社会に意味あるものとなることを願っています。(す)



社会福祉法人  
**はばたき福祉事業団**

本 部	〒162-0814 東京都新宿区新小川町9番20号 新小川町ビル5F TEL 03-5228-1200 FAX 03-5227-7126
北海道支部	〒064-0805 札幌市中央区南5条西10丁目 サンハイツ南5条1005号 TEL/FAX 011-551-4439
東北支部	〒983-0047 仙台市宮城野区銀杏町7-14 銀杏ビル102号 TEL/FAX 022-791-9270
中部支部	〒461-0001 名古屋市東区泉1-1-35 ハイエスト久屋5F 柴田・羽賀法律事務所気付 TEL/FAX 0583-89-4909
九州支部	〒810-0062 福岡市中央区荒戸3-2-5 東峰マンション第一西公園303号 TEL/FAX 092-717-6329